

2015年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	生物環境化学科							
科目名	環境化学 I							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期			
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース)／選択科目(食品生物資源コース)／選択科目(エネルギー・環境コース)							
担当者	菅野 憲一							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。 ・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。 ・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。 ・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。 							
日程と内容	<p>4/10 導入講義、環境基本法、各種基本計画、各種白書を通じて環境問題に関する知識を修得。</p> <p>4/17 地球温暖化と気候変動枠組条約およびIPCCの知識を修得。</p> <p>4/24 オゾンホールとウィーン条約、モントリオール議定書、大気汚染の現状を修得。</p> <p>5/1 水質汚濁と大気汚染およびそれらの指標を修得。</p> <p>5/8 有害物質の人体への影響と環境基準および近年の達成度を修得。</p> <p>5/15 水質汚濁と排出源を修得。</p> <p>5/22 污水处理技術①物理化学処理を修得。</p> <p>5/29 污水处理技術②生物処理を修得。</p> <p>6/5 污水处理における各種計算方法を修得。</p> <p>6/12 水質有害物質処理(重金属など)に関する知識を修得。</p> <p>6/19 水質有害物質処理(重金属以外)に関する知識を修得。</p> <p>6/26 処理水の再利用と大規模設備の水質汚濁防止対策を修得。水の合理的な利用を学ぶ。</p> <p>7/3 廃棄物とリサイクルに関する知識を修得。</p> <p>7/10 生物多様性条約、砂漠化対処条約と水。砂漠化と森林の役割についての知識を修得。</p> <p>7/17 定期試験</p> <p>7/24 スターンレビューとT E E B。環境保全と経済活動の知識を修得。</p>							
成績評価基準	定期試験	100%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法の概要、7大公害病、9大地球環境問題を説明できる。:達成した。 ・気候変動、オゾンホール、砂漠化、生物多様性、エネルギー問題について説明できる。:達成した。 ・水質汚濁の原因や処理技術を説明できる。:達成した。 ・産業廃棄物のリサイクル方法について説明し、今後の課題について提案できる。:達成した。 							
反省点	<p>合格率90%、合格者の平均点は82点であった。やや難解な内容であったが合格率、平均点共に高い結果となった。</p> <p>公害防止管理者資格の対策となる内容を講義したが、資格に興味をもつ学生は多くなかったようだ。</p>							
来年度の計画	<p>就職対策などにおいても国家資格の取得は望ましいので、公害防止管理者資格に興味を持ってもらえるように工夫したい。</p> <p>公害防止管理者資格合格をサポートするために分析に関する内容を充実させたい。</p>							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均は昨年度より0.5ポイント下がり8.0であった。							
履修登録者数	54名	定期試験受験者数	52名	合格者数	47名	合格率	90%	